

2021 年度 ソフトウェア実験 A2 (関数その2 (Processing))

1. 目的

昨年度後半の2年プログラミング I ではC言語の関数の基礎について学んだ。関数は自分で新しく命令を作るものであり、本格的なソフトウェアを作る上で必ず必要になるものである。そこで本実験1週目では関数を用いたプログラムを作ることで、関数に対する理解を深める。また1年次では情報リテラシーでProcessingを用いてグラフィカルなプログラム作成の基礎を学んだ。そこで特に今週はProcessingでの開発行程や関数について理解を深める。

2. 原理 (Processing の関数について)

Processing の関数はC言語の関数の仕組みと同様である。主な違いを以下に挙げる。

1. C言語のポインタが使えない。

C言語では1つの値を返す時には **return**、複数の値を返す時にはポインタを利用する方法を良く使うが、**Processing** ではC言語のような「*」や「&」を使ったポインタ使用法が使えない。

(C言語でポインタを利用する関数の例)

```
void func(int *a, int *b){
    *a = 1;    *b = 2;
}
void main()[
    int a, b;
    func(&a, &b);
}
```

Processing では比較的小規模なプログラムを作ることが多く、大域変数を積極的に使う習慣がある。

```
int a, b;

void func(){
    a = 1;  b = 2;
}
void draw(){
    func();
}
```

2. 特殊な予約済み関数名がある。

Processing では **keyPressed()** や **keyReleased()**、**mousePressed()**、

`mouseReleased()`といった特殊な関数名が予約されている。これらの関数はユーザーが所定の操作を行った際に実行されるものであり、その実行内容はプログラマが自由に実装することができる。例えば'a'キーを押すと長方形を描く関数を作りたければ以下の様にすれば良い。

(方法その1)

```
void keyPressed(){
    if (key == 'a'){
        rect(10, 10, 50, 50);
    }
}
```

(方法その2)

```
void keyReleased(){
    if (key == 'a'){
        rect(10, 10, 50, 50);
    }
}
```

(参考：方法その3)

```
void draw(){
    if (keyPressed == true){ //特殊な変数 keyPressed を利用
        if (key == 'a'){
            rect(10, 10, 50, 50);
        }
    }
}
```

3. 課題： じゃんけんゲームの実装

3-1 概要

Processing を使い、以下に示す要領で一人のプレイヤーがコンピュータと対戦するじゃんけんゲームを作れ。

3-2 じゃんけんの手や勝敗について

前回のC言語と同様のため省略する。

3-3 ゲームの状態遷移について

今回実装するじゃんけんではゲームの流れに沿って画面構成が変化する。そこでゲーム状

態がどのように遷移するかを図で設計する。以下の図 1 がその設計例である。

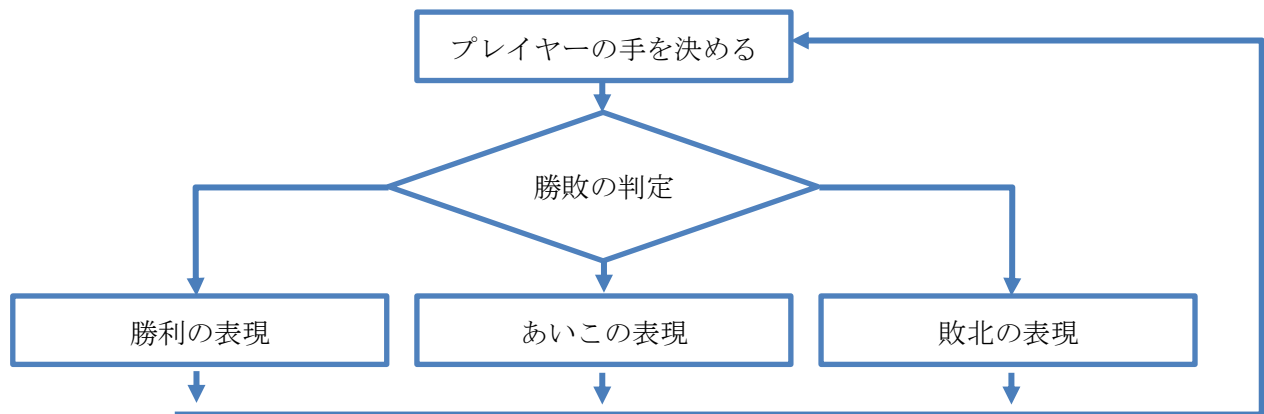


図 1 ゲームの状態遷移

基本的には図 1 の四角ブロック毎に画面の表現が変わるものとする。これを Processing で実現するには、各状態に番号をふり、現在の状態を示す大域変数 `status` を用意して管理する方法がある。そのソース例を以下に示す。

```
int status = 0;

void draw(){
  switch (status) {
    case 0:
      状態 0 の時の処理
      break;
    case 1:
      状態 1 の時の処理
      break;
    (略)
  }
}
```

ただしこの方法では状態をマジックナンバーで表しており、数値 0 がどんな状態なのか分かりづらい。こんな時に C 言語では `#define` を使って数値を文字列で表現するが、Processing の場合 `#define` が無いので、以下のようにして数値に文字列を割り当てる。

```
public static final int MATCH = 0;
public static final int TIE   = 1;
public static final int LOSE  = 2;
public static final int WIN   = 3;
```

```

int status = MATCH;

void draw(){
    switch (status) {
        case MATCH:
            プレイヤーの手を決める処理
            break;
        case TIE:
            あいこの表現
            break;
        case LOSE:
            敗北の表現
            break;
        case WIN:
            勝利の表現
            break;
    }
}

```

3-4 実装する関数について

本課題では以下の関数を実装すること。関数は適宜増やすまたは仕様変更などして良いものとする。

《最低限用意する大域変数》

```

int status;           // ゲームの状態番号を入れる
int player;           // プレイヤーの手番号を入れる
int computer;         // コンピュータの手番号を入れる

```

《互いに手を決める関数》

関数の書式：

```
void match();
```

引数：

なし

返り値：

なし

機能：

乱数でコンピュータの手 (0 or 1 or 2) を決め、大域変数 computer に入れる。

```
computer = (int)random(3);
```

またプレイヤーの手を入力し、大域変数 player に入れる。そして入力が終わったら勝敗判定の関数を呼ぶ。

《勝負判定を行う関数》

関数の書式：

```
void judge();
```

引数：

なし

戻り値：

なし

機能：

プレイヤーの手(大域変数 player)とコンピュータの手(大域変数 computer)から勝敗を判定し、結果に応じて状態番号(大域変数 status)の値を変更する。

《勝利を知らせる関数》

関数の書式：

```
void win();
```

引数：

なし

戻り値：

なし

機能：

プレイヤーが勝ったことを示す表示を行う。

《あいこを知らせる関数》

関数の書式：

```
void tie();
```

引数：

なし

戻り値：

なし

機能：

あいこを示す表示を行う。

《敗北を知らせる関数》

関数の書式：

```
void lose();
```

引数:

なし

返り値:

なし

機能:

プレイヤーが負けたことを示す表示を行う。

《雛形》

```
001: //
002: // 手の画像素材: http://www.irasutoya.com/2013/07/blog-post\_5608.html
003: //
004:
005: // ゲームの状態を示す番号と状態名のdefine
006: public static final int MATCH = 0; // 手を決める状態
007: public static final int TIE = 1; // あいこの状態
008: public static final int LOSE = 2; // 敗北の状態
009: public static final int WIN = 3; // 勝利の状態
010:
011: // 大域変数の宣言
012: int status = MATCH;
013: int player = 0;
014: int computer = 0;
015: PImage[] hand;
016: PFont font;
017:
018: //-----
019: // 初期設定(実行時に1回実行される)
020: //
021: void setup() {
022:     // 画面の設定
023:     size(700, 500);
024:     smooth();
025:
026:     // 画像ファイルの設定
027:     hand = new PImage[3];
028:     hand[0] = loadImage("image/gu.png");
029:     hand[1] = loadImage("image/choki.png");
```

```

030:  hand[2] = loadImage("image/pa.png");
031:
032:  // フォントの設定
033:  // println(PFont.list());
034:  font = createFont("メイリオ", 32);  // フォントを設定する
035:  textAlign(CENTER, CENTER);
036: }
037:
038: //-----
039: // 実行停止するまで何度も繰り返し実行される
040: //
041: void draw() {
042:   background(255, 255, 200);
043:   switch (status) {
044:     case MATCH:
045:       match();
046:       break;
047:     case TIE:
048:       tie();
049:       break;
050:     case LOSE:
051:       lose();
052:       break;
053:     case WIN:
054:       win();
055:       break;
056:   }
057: }
058:
059: //-----
060: // 画面に両者の手を表示する
061: //
062: void showHand() {
063:   imageMode(CENTER);
064:   image(hand[player ], width/4, height/2);
065:   image(hand[computer], width*3/4, height/2);
066:   fill(0);
067:   textFont(font);

```

```

068:  text("あなた", width/4, height*1/5);
069:  text("computer", width*3/4, height*1/5);
070:  }
071:
072:  //-----
073:  // 両者の手を決める状態
074:  //
075:  void match() {
076:    computer = (int)random(3);
077:    //略
078:  }
079:
080:  //-----
081:  // 勝敗判定し status の値を変更する
082:  //
083:  void judge() {
084:  }
085:
086:  //-----
087:  // あいこの結果表示
088:  //
089:  void tie() {
090:  }
091:
092:  //-----
093:  // 敗北の結果表現
094:  //
095:  void lose() {
096:  }
097:
098:  //-----
099:  // 勝利の結果表現
100:  //
101:  void win() {
102:  }

```

4. 完成度を高めるために

まずは最低限の仕様を満たすプログラムを完成させること。その上で以下の面を改造してより完成度を高めて欲しい。

1. プレイヤーの手をマウスクリックで選べるようにする。
2. 画面の色変更、文字のフォントサイズ、視覚効果を加える、音を付けるなど、見た目のゲームらしさを演出する。

5. レポートについて

今回作成した Processing プログラムについては、作成したものをレポートにまとめて WebClass に提出する。その際どんな点を工夫したか分かるようにすること。